



【内痔核(いぼ痔)】

切りっぱなしに治せる硬化療法に期待

老若男女を問わず、誰もがなる可能性のある痔(じ)。「恥ずかしがらず、正しい知識を持つことが大切です。最近の治療法や注意点について、ヴォーリス記念病院院長の周防正史さんに聞きました。

痔疾患の6割〜7割は内痔核

国民病といわれるほどポピュラーな病気「痔」。中でも内痔核(いぼ痔)は男女共に「一番多く、痔疾患の6割〜7割を占める」とわれています。

「排便時のいきみは、肛門にとって大きな負担。残便感があっても、なるべく5分以内で切り上げましょう。和式トイレは避けたほうが無難です。

根治に近い状態が得られるALTA法

内痔核は一般的に、I度・出血がある、II度・排便時に脱出するが自然に戻る、III度・指で押し込まないと戻らない、IV度・脱出したまま戻らない(脱肛)の4段階に分類されています。

「I度〜II度は、基本的に坐薬・軟こう・飲み薬といった薬物で、保存的治療を行います。薬物で、出血、痛み、腫れなどの症状が改善せず、本人が希望する場合、III度・IV度に対しては、従来切除手術を行っています。したが、昨年、四段階注射法(以下、ALTA法)という新しい硬化療法が保険適応に。これは、内痔核に直接注射して脱出を防ぐ治療法で、従来の硬化療法に比べて、格段に確実性があります。当院では、昨年の1月から導入していますが、現在

自宅の場合、上にかぶせるタイプの洋式便器を利用すれば、負担を軽減することが出来ます。アルコールや唐辛子などの刺激物は、症状を悪化させるので控えます。座り仕事を長時間続けなければならぬ場合、1時間〜2時間に一度は、伸びや屈伸などの軽い体操で体を動かすよう心がけて

「これまで再発例はなく、根治に近い状態が得られています。外痔核は適応外です。内痔核に随伴するものは、効果が期待できません。メスを入れないので、痛みが少なく、回復が早いのが特長です。患者さんの安全を一番に考え、現在は2泊3日の入院をしてもらっています。術後出血は一例も見られていません。結ぶ切除術の入院期間が2週間であることに比べると、負

「肛門衛生環境の改善と、患部を温めるという意味で、大きなメリットがあります。ただし、何事もやり過ぎは禁物。直腸まで水を入れる必要はありません。1分〜2分で、肛門周囲を洗浄するにとどめましょう」

「ただし、注射する場所や、薬剤の使用量が適切でないと、十分な効果が得られないだけでなく、副作用を起す可能性も。」

「お尻からの出血を痔だと思いついで放置し、受診時に直腸がんや大腸がんといった重篤な疾患が見つかることもあります。出血が2日〜3日続くようであれば、ぜひ、受診を。痔だとはっきりすれば、必要に応じて治療を行えばいいのです。一人で悩まず、気軽に相談してください。あまり長く脱出状態を放っておくと、症状が進み、手間や時間のかかる手術が必要になることも。早めの受診が大切です。」

恥ずかしがらず、早めの受診を

「お尻からの出血を痔だと思いついで放置し、受診時に直腸がんや大腸がんといった重篤な疾患が見つかることもあります。出血が2日〜3日続くようであれば、ぜひ、受診を。痔だとはっきりすれば、必要に応じて治療を行えばいいのです。一人で悩まず、気軽に相談してください。あまり長く脱出状態を放っておくと、症状が進み、手間や時間のかかる手術が必要になることも。早めの受診が大切です。」

女性の場合、恥ずかしさから我慢してしまう人が多いとか。最近では、女性に配慮した医療機関も増えていきます。診察も横向きの姿勢に穴の開いたタオルをかけ、背後から患部だけを診るのが主流です。恥ずかしがらず、医師とよく相談し、自分の症状や生活スタイルに合った治療法を選択するといいたいでしょう。

※ <http://zinjaject.com/>

(医療ライター・山内由佳里)



ヴォーリス記念病院
院長
周防正史さん

1983年、滋賀医科大学医学部卒業。
1995年から現職。
外科、肛門科担当。